

180-衆-環境委員会-8号 平成24年07月27日

※福島県の除染に関する質問に対する答弁

○吉野委員 申しわけないですけれども、今の答弁では、せっかくつくった規制委員会、国民の信頼を得ることができないというふうに私は判断します。

次に行きます。

今、福島県で除染がされております。そして、環境省の基準で除染がされているんですけども、森林の除染が、山から来て自分の屋敷がある、山の部分は二十メートルしか森林除染しないのが環境省のルールなんですけれども、私の地元は全部山奥、川内村も飯舘村も広野も全部そうなんですけれども、水道じゃなくて、沢水、湧き水、これを飲んでいる方が結構いるんです。沢水ですから、沢は、自分の住んでいる家からずっと頂上まであるんですね。ですから、二十メートルで切れちゃうと、そこで湧き水が出ていけば、沢水がそこから出水していれば除染されるんですけども、そうじゃなくて、沢全体をやはり私は除染すべきだと思います。

生活圏の除染、農地の除染、この二つを今環境省が、二年間でやっちゃおうということで本当に取り組んでいるところなんですけれども、事飲み水に関して、厚生労働省として、この二十メートルで区切っている点についてどう思っているのか。そして、それはおかしいよ、生活圏なんだから、飲み水は全部飲み水が集まるエリア、いわゆる一沢、沢全体を除染すべきだよ、そういうことを厚労省は環境省に言ってほしいんですけども、いかがでしょうか。

○辻副大臣 吉野先生から厚生労働行政にかかわる問題につきましてもいろいろと御指導をいただいておりますこと、感謝申し上げます。

そこで、御指摘をいただきました除染に関してでございますけれども、除染する区域の考え方につきましては、環境省において、住居等近隣における措置を最優先に、その効果等を踏まえて検討されるというふうに認識しているところでございます。

厚生労働省といたしましては、水道水の安全性確保の観点から、本年三月五日に水道水中の放射性物質に係る管理目標値を設定いたしまして、都道府県及び水道事業者等にお示しをしたところでございます。

そして、これまでの水道水のモニタリング結果によりますと、昨年七月以降、福島県内において管理目標値の十分の一を超えて検出されたものはないということでございます。

また、環境省が実施しておられるモニタリング結果によりますと、最近では、警戒区域においても、湖沼、水源地や地下水から放射性物質はほとんど検出されておらず、管理目標値より十分低いレベルにあるというふうに伺っているところでございます。

いずれにいたしましても、除染後に住民の皆さん方が帰還されるに当たりましては、モニタリングの実施等によりまして、安全、安心の確保に努めてまいりたい、このように考えているところでございます。

○吉野委員 厚労省は、水道の水、いわゆる水道事業者がつくった水道の水についてはきちんとチェックをしているという答弁だったんですけども、水道のない地域なんです。水道のない地域で、流れ水、沢水、また湧き水、ここを飲んでいる。こういう人たちの健康は、厚労省ではある意味のチェックはしていないんでしょうか。

○辻副大臣 私どもの主管といたしましては、水道水について責任を持って対応させていただいているということでございます。

○吉野委員 地下水については環境省という答弁があったんですけども、飲み水になる湧き水、地下水を調べたのか、通常の河川の水、地下水を調べたのか、それはどこなんです。ちょっと環境省、答弁してください。

○鷺坂政府参考人 私どもはモニタリング調整会議等で水質の調査をするという役割を仰せつかっておりまして、基本的には環境ということでございますので、一般公共水域を調べているということでございます。ですから、それは河川でございますし、それからあとは湖沼、湖ですね、そういったところを調べている、こういうことでございます。

○吉野委員 大臣、今の議論を聞いていてどう思いますか。

川内村は帰還するんです。飲み水に沢水、湧き水を使っているんです。でも、環境省で調べているのは一般公共水域しか調べていない。飲み水を本当に調べて大丈夫だよというお墨つきがなければ、なかなか帰還する人は少ないと思うんですけども、沢全体も除染するというのをちょっと約束できないでしょうか。

○細野国務大臣 ちょうど私も二週間ほど前ですけども、川内村に一泊しまして、企業経営者三十人ぐらい連れて行って、川内村で何か仕事ができないだろうか、そういうツアーを企画して行ってまいりました。朝、除染の現場も見てまいりまして、その御自宅か御近所かちょっと定かではありませんけれども、沢水を飲んでおられるという話を聞きました。

今はちょっと答弁が必ずしも明確ではありませんでしたが、環境省としても、飲み水が一番大事ですので、それを調べるというような、きちっと川や湖沼の調査はこれまでもしています。それをさらに強化をするようにいたします。

本当に福島の方には大変な思いをさせてしまっている、もう本当に申しわけないという思いでいっぱいなんです。川内村の方など話していると、せめてやはり水が汚染されていなかったというのはよかったという声はあるんですね。

実際、我々も十分放射性物質の挙動についてもともと知見があったわけではありませんが、泥にたまるものですから、それが流れなければ、水そのものは汚染をされていない状況で活用できるということも大分わかってまいりました。

ですから、その状況をできるだけしっかりと確認をして、安心をして生活していただけるような努力というのをしてまいりたいというふうに思います。

一方で、森林全体の除染は、地域の放射線レベルを下げるという意味では極めて重要でございますので、山全体のレベルをどのように下げていくのかというのは、また違う意味で非常に重要でございますので、しっかりと検討して取り組んでまいりたいと考えております。

(以下略)